

## コラム・GO! GO! エレクトリション No.78

※(本紙ブログサイト《GO! GO! エレクトリション》にもぜひアクセスを!)  
アクセス・キーワードは GO! GO! エレクトリションで

### 大人の遠足シリーズ NO.2 / ジオパークミュージアム・ジオリア プレート活動のスクランブル交差点・伊豆半島の誕生を探る施設

正式名称は伊豆半島ジオパークミュージアム『ジオリア』。伊豆半島は全域がユネスコから世界ジオパークに認定(2018年)されており、この施設は文字通り、伊豆半島の「ジオパークぶり」の概要を紹介するため設立された施設だ。

運営は伊豆半島13の自治体をはじめ、関係団体、大学、企業などが連携して立ち上げた「伊豆半島ジオパーク推進協議会」が行っている。

周知のように地球上に存在する陸地は、地球の表面に薄皮のように載っている部分に過ぎない。地球の中心部(核)の周囲にはマントルがある。マントルの上部は常に移動するプレート(厚さ約100km)であり、地表部の陸地はそのプレートの上に乗っている。

また、地球の表面近くを流動するプレートは全部で14枚~15枚あるとされ、日本列島付近ではそのうちの3枚が集まり、ひしめき合っているとされている。

日本列島はこれら3枚のプレートのぶつかり合い、ひしめき合いの末に活発化した火山活動の結果として生まれた。日本に今も活火山が多く存在しているのはそのせいだし、地震はプレートのぶつかり合いや火山活動の結果として多発している。

中でも伊豆半島の成り立ちは特殊で、太古からの火山活動で本州がほぼ形成されたところに、フィリピン海プレートに乗った伊豆半島の「素」が衝突し、伊豆半島の中央部に複雑な形で重なり合う山々(演歌で名高い天城山など)は、その際に噴火し、隆起した、陸地の衝突運動の名残り。伊豆半島のほぼ全域が温泉地

帯なのもそのせいなのだ。

ちなみにジオは、ジオグラフィー(地理学)やジオロジー(地質学)などのように、地球や土地、地下などのさまざまな意味を構成する英語表記の素になっている。ひるがえってジオパークとは、そうしたさまざまな地球の成り立ちに関する地質学的活動の様子(あるいはその痕跡)が、目の当たりにできる場所が揃っている地帯を意味する。

まさに伊豆半島のような場所のためにある言葉、といってもいいだろう。

本欄が伊豆ジオパークに注目し、伊豆ジオパークの概要を紹介する施設『ジオリア』に着目するのは、他でもない。

火山活動に由来する温泉を活用する地熱、陸地の間を流れる海流や山々の間を流れる河川が生み出す水の力を活用する水力発電、水面や陸地から生じる上昇気流などが生み出す風力発電など、持続可能な自然エネルギーはみな地球の成り立ちと関係しているからだ。

さらに「大人の遠足」「社会科見学」の一環として、『ジオリア』を訪ねたり、その周囲に展開するジオパーク的景観を散策したりすることは、地球が生み出す天然自然の電気エネルギーの素を、楽しく学習する機会を得ることに繋がる。

伊豆半島に限らず、そんな目で改めて野山や海を訪ねれば、何の変哲もないと思われた景観にもさまざまな意味や滋味が隠されていることに気付く。これもまた、旅の大きな醍醐味というべきだろう。(未知草)